
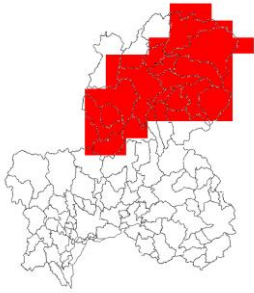


ヤマハナワラビ	<i>Botrychium multifidum</i> (S.G.Gmel.) Rupr.	準絶滅危惧
		ハナヤスリ科
選定理由	生育地が限定されるうえ、生育地の自然環境が厳しく、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	冬緑性の多年生シダ。栄養葉の柄は7-8cm、葉身は三角状長楕円形。3回羽状に深裂する。孢子葉は栄養葉よりはるかに長い。	
生態的特徴	日当たりの良い山地の林下に生育する。	
分布状況	北海道・本州(中部地方以北)に分布する。岐阜県では県北部に分布する。	
減少要因	山林開発および周辺植物の繁茂など植生環境の変化。	
保全対策	生育地の開発防止と保全、周辺植物の除伐など生育環境を維持する活動。	
特記事項		
参考文献		

文責:村瀬正成